

未来想造舎 和久 配食部門 夕食弁当の持ち帰り&宅配開始

栄養士が献立を手がける、野菜たっぷりの健康弁当！

創心会グループ会社 未来想造舎 和久 配食部門（以下、配食部門）では、これまで自社デイサービスへの配食を主として取り扱ってきました。しかし、地域包括ケアの視点から、施設サービスだけでなく、在宅サービスを拡充させることで、ご利用者に生活様式を選択肢を広げて頂けるよう、10月1日から夕食弁当持ち帰りサービスを開始しました。価格は、持ち帰りが1食 550 円（おかずのみは1食500円）宅配はプラス50円。メイン料理を、肉もしくは魚から選ぶことができ、月曜から金曜まで利用が可能です。持ち帰りサービスの対象は、創心会リハビリ倶楽部を利用されているご利用者様。宅配は、サービス利用の有無に限らず岡山県在住の方を対象にしています。詳細は下記までお問い合わせください。



▲ 上：魚弁当、下：肉弁当。ご飯は雑穀米を使用。

お弁当についてのお問合せはこちら ☎ 086-420-0700



出来るだけ長く住み慣れた地域で、ご自分の力で生活していただけるように。
創心会では、予防段階から要介護状態にならないための対策を知っていただく介護予防教室を行っています。

いきいき介護予防トレーニング！ 開催してみませんか？

年齢のせいだと諦めず、
いつまでも明るく健康に人生を楽しむために一。

③ 寝たきりの原因となる廃用症候群（生活不活性病）

廃用症候群（生活不活発病）に陥る原因は、過剰な安静状態を取り過ぎることです。しかし、腰痛や風邪で数日間寝込むといった日常的な事が原因になることもあります。創心会介護予防教室の講師は、リハビリの専門知識を持ったプロです。廃用症候群予防のコツを学び、健康的で自分らしい人生をエンジョイしましょう。

介護予防教室のお申し込み先

11月未だに開催費用無料 ☎ 086-420-1500
介護予防教室開催希望の方は、下記までお問い合わせください。

● 地区単位など少人数でもOK ● 日程はご相談ください

11
月号心
創
心
創
心

言語聴覚士による在宅サービスとは

01 創心会訪問看護ステーションより

02 創心会リハビリ倶楽部 茶屋町の取り組み

03 接遇力UP! 電話応対コンクール参加

04 創心会ケアマネジャーの取り組み

05 グループ会社の取り組み

06 創心会からのお知らせ

01

創心会訪問看護ステーションより

言語聴覚士によるリハビリ ～ご自宅で安心して受けられるケアを提供します～

創心會では、言語聴覚士（ST）の在宅訪問リハビリにおいて「うまく話せない」「食べ物の咀嚼や飲み込みが困難」といった問題を抱える、大人から子供まで幅広い年代の方にケアを行っています。

ご利用者様と関われる時間は限られていますが、短時間でも濃厚な内容の指導訓練を実施しています。嚥下に関しては、口唇、舌、頬、顎、喉などの動きを詳しく評価して、その方に適した姿勢、一口量、食物形態、介助方法を細かく指導、助言しています。小児に対しては、まず発達段階に応じた指導訓練をする中で、家族指導を主に実施しています。

また、デイサービス、居宅では、実際に食事をしている場面やリハビリ（訓練）場面を観察する中で、ご利用者様の抱えている問題について担当スタッフと相談、連携しながら解決を図ります。

例えば…

- 自宅安心して食事が摂取できるように、指導訓練します。
- 在宅での日常生活が不安なく送られるように助言します。
- 嚥下体操を実施することで、食べられる楽しみを持てるようにします。
- 口腔ケアを実施することで、誤嚥性肺炎を予防します。
- 言語訓練を実施することで、発語を行いやすくします。
- 呼吸リハビリを実施することで、健康が保たれます。
- 高次脳機能訓練を実施することで、日常生活・社会生活の改善に繋がります。

また、デイサービスでも言語聴覚士が関わり、個別アプローチや集団訓練メニューの提供を実施しております。定期的なアセスメントや訓練により発語意欲が高まり、発声、構音訓練をされるようになった方もおり、最近では5名程度の小グループ訓練も継続的に行っております。今後も訪問でのリハビリはもちろん、デイサービスでも効果的なグループ訓練が行えるよう、お一人おひとりの目的を明確にし、チーム一丸となって取り組んでいきます。

02

創心会リハビリ倶楽部 茶屋町の取り組み

本部センターにて合同避難訓練を実施

10月17日、創心会リハビリ倶楽部茶屋町と2F事務所にて、火災時の合同避難訓練が実施されました。火元を1F デイサービスのホットパックに仮定し、警報音を合図に避難を開始。ご利用者様の安全確保を第一に、初期消火活動班と避難誘導班に分かれ、すみやかに避難活動が行われました。避難所要時間は、避難3分、点呼5分の計8分。避難訓練の指導員の方からは、「優秀です。」とのお褒めの言葉を頂きました！避難経路の確認や、緊急時の通報内容の確認など、訓練時だけでなく、日頃から予防に努めることの大切さを再確認出来ました。



●火災時のチェック項目

- ☒ 火災時は机の下や風呂場・トイレなどの狭い場所に逃げ込みやすいので、避難時は要確認！
- ☐ 誤って火元に近づかないよう、アナウンスで火元を繰り返し伝える。
- ☐ 避難時は、煙を吸い込まないよう低姿勢で移動。ご利用者様の口元は、ハンカチで覆う。
- ☐ 消火器使用時は、煙で避難経路を見失わないよう、逃げ道を背にして使用する。
- ☐ 腰より高い位置の炎は、消火器では鎮火不可能。すみやかに逃げましょう。



03

接遇力 UP！電話対応コンクール参加



電話対応コンクール岡山県大会にて6位入賞！

電話対応コンクールとは、正しく美しい日本語を守り伝え、電話対応サービスとトーク技術を競うコンクールで、電話対応スキルの向上を図るために日本電信電話ユーザ協会が、毎年全国規模で開催しているものです。

どのような言葉で表現をすれば、相手に伝わりやすいか、話すスピードは？会話の間の取り方は？声の高さは？などお互いに指摘し合い、練習した成果がこの度の受賞に繋がりました。

電話では、相手の表情がみえません。だからこそ、こちらが笑顔で対応している様子を思い描いていただけるよう、声に表情をつけることが大切です。「この人に任せて安心」「会ってみたい」など、相手に良い印象を与えるには、ポイントがあります。コンクールでは、他事業所の方の対応を一人ずつ聴くことができますが、そこで気付かされるのは、「良い印象」が残る方は、顔の表情が非常に豊かで、人として好感のもてる方であること。反対に、トーク技術が完璧で正しく日本語が使えていても、雰囲気や表情が暗いと、相手に誠意が伝わって来ないことが分かりました。

この度の電話対応コンクールでの経験を活かし、創心會グループ全体で、相手に笑顔が届け満足して頂ける電話対応に、更なる磨きをかけられるよう努めて参ります。



04

創心會ケアマネジャーの取り組み



「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を考える。



多職種連携の第一歩「顔の見える関係づくり」を地域で！

厚生労働省の調査によると、65歳以上の高齢者のうち、認知症の方は推計15%で、2012年時点で約462万人に上ることがわかっています。85歳以上となると、実に40%以上。認知症は、早期発見、早期予防・治療が大切な病です。そのためには、他地域・多職種間で情報を行き来させ、医療・福祉・介護の視点で、意見を発表し議論できる場が必要だと考えています。

「デメンシア कांग्रेस」開催の経緯と 浦上 克哉 氏（鳥取大学医学部教授）による講演会の内容

10月4日に開催された「デメンシア कांग्रेस～認知症になっても安心して暮らせるまちづくり～」は、エーザイ株式会社の協力の元、そうごう薬局、大高高齢者支援センター、倉敷リハビリテーション病院、創心会居宅介護支援センター笹沖によって実現した多職種連携のための取り組みです。講演会では、浦上克哉氏が関わり、効果のあった鳥取県琴浦町での認知症予防の活動をはじめ、認知症やその予防に効果のある薬剤について、アルツハイマー型認知症と嗅覚との関連性、嗅覚への刺激に効果的なアロマ療法などについてご講話いただきました。

自治体と連携・実施された認知症予防事業の内容（一部）

- スクリーニング検査と認知症理解のためのミニ講演会
- 認知症をささえるまちづくりフォーラム など